









「無限の熱血」を讀む 錦陵生


是は所りしも明治三十三年十月中旬、天高馬蹄仰るの交我々皇太子殿下には地方狀御馳驅の爲、西國に行啓からせられたる、縣民奉つて此の千載一遇の盛儀を就呼し男女老若各々々々親の光榮を得たり其の際甚くも殿下には貧民寮の事ぞ

不埒なる南山占領

日露收復以來韓國地に在りし邦人の喪失するもの一日に増加し之れが爲の岩留地は放廢となり城の内外に廢るゝに至れり此時に當り倭兵は韓人と結託して南山麓の土地を買收し官有地たる南山に侵入するに至れり即ち巍然たる高嶺大廈の發するは多くは此山のといふも過言にあらずなり然るに南山の翠松は居留民の生命として長く其國政を害せざらんとし日本公團地に編入し其樁石を南立して一帯も窺すべからざることをせしに統置府廳托と稱する黒田某は老人耄耋の地數萬坪を占領し黒田山莊と號ぐし標札を數ヶ處樹立を假りて濫りに入るべから

代の主へに事へて忠節を抽んじたるへ  
世に聞も四代の主に懸じし忠義を盡  
たる敬すべき番頭の現れたりその番頭  
廣島縣下賀茂郡原町の酒造家竹助助  
門方に勤むる吉井重兵衛のこといへる  
にて初代の主助右衛門は町庄屋を勤め  
業上の事は總て重兵衛が引受け惜なく  
勤まらるに主人はフト疾病して床に  
こもりとなり日増に重る容体に家族は焦  
り重兵衛の心病方ならず例に當りて看  
るに手を盡せしも早や限られたる命數にや  
に起さるしめを後を嗣れたる養子に仕へ  
業務に勤めし今日の主人に至るまで

じての定則にてもかきミヨは骨うづさきて  
 難病に陥り昨日までは若い男に頼もひか  
 道往けば後安と見返へされし廻郷安も肉  
 だれて髪は抜け病癩みたる衣服を纏ふまで  
 寢れ果てしは唯する人はあれども。驚き言  
 (さだ掛くる)

  
 印 章 周 刻  
 水 晶 篆 刻  
 ゴ ム 印 製 造  
 京 城 本 町 一 丁 目  
 竹 下 萬 祥 堂  
 早 一 軒  
 ル ー テ ー

**日韓商工人名錄**

本會は日本銀行日本勸業銀行を始め其他有力なる實業家の賛成により日韓通商貿易の發達を助長せしむる目的を以て内けり  
本書は日本全國及滿洲の諸地、其範圍として三島嶼工業地誌を括り主なる實業家の氏名住所、營業全圖、商號、所得稅額、農業稅額並に銀行此社の權利重役の名簿、實業財產等、醫師病院、學校等を詳録し、所在地產物品の種類、輸出貨統計は勿論運輸交通の形況、戸口里程に至る迄實業に關する必要の事項も悉く網羅せるべし  
本書の特色は發行後に於て登録者の移動及納税額等調査の依頼應ずること共に各種の事故を通信報道して座ながら遠近の事情に通じ取り先の大機關を知悉し總ての災害を未前に防ぎ安全に取引し得べき一機關係にしむるにあり  
苟くも社會事業の成績を審にし新會社の性質を究め商家の營業程度を知らんと欲する者は須く本書を備へ直接の通信に接せざるべからず  
本書に加入を望まざるも向は各該本社に照會せらるゝか又は韓國出張員と便宜御相談せられたし

東京市京橋區新富町三丁目

印刷下目  
中本製

-405-

御乗船ノ際ハ程脚波止場ヨリ本船迄  
沿道御船ニテ御送可申候様迎駕一本  
道船廿艘ノ約五十分前ニ御駕懸ノ事